

被災者の心の叫び、国内外の応援

平和祈る声まとめ本に

アレキサンダー
神大教授

伝える
1.17 3.11

神戸大学大学院国際協力研究科(神戸市灘区)のロニー・アレキサンダー教授(55)が、東日本大震災の被災者らとの交流からスタートした「平和の旅」を、「ポーボキ友

情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅」にまとめ、出版した。アレキサンダー教授は2005年から世界各国で、飼い猫だった「ポーボキ」を主人公に、市民らに五感で平和を考え表現してもらうワークショップに取り組み。昨年4月、布とペンを持って仙台市の避難所を訪ねた。被災者らは「津波のバカ じしんのバ



完成した本を広げるロニー・アレキサンダー教授＝神戸市中央区内

カ「天植の町を返せ」など、心の叫びを寄せた。その後、神戸、大阪のほか、米国やチェコ、ネパールなど海外で、復興への願いを書き加えてもらった。「つなごろう!!」ネパールは永遠に日本の友たちです」といった応援メッセージが寄せられ、10月までに布の全長は約60メートルになった。「ポーボキ」は、「いのち」「いかり」「つなごろう」などのキーワードで章立て。絵やメッセージ数点を選び、写真も加えて日本語と英語の2カ国語で紹介した。1冊1500円。売り

上げの一部を被災地支援活動に使う。アレキサンダー教授は「地球のどこかに(自分を)思ってくれる人がいて、互いに支え合っているということを感じてほしい」と話している。絵やメッセージの布の一部は、22日まで神戸市役所2階の市民ギャラリーで展示中。(斎藤雅志)